

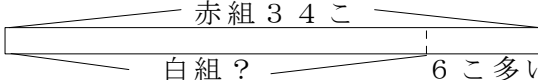
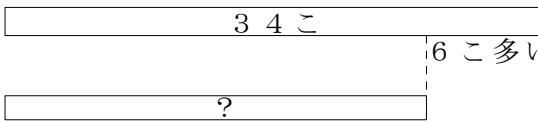
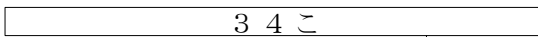
(1) 目標
求大 (大きい方を求める) の問題を解くことができる。

(2) 本時の展開

第1学年	
●支援 ○評価	学習活動
●さし絵をはり、絵を見て情景把握ができたところで問題文を提示する。	①問題文を読み、問題場面を知る。 たいきくんのうえきばちのめは5こで たよ。あすかさんのうえきばちのめは、 たいきくんのより2こおおくでたよ。 あすかさんのうえきばちのめはなんこ でしたか。
●何度も読んで、分かっていること等大事なことに線を引きを整理し、題意を捉えさせる。「～は～より多い。」という数量の関係をしっかり捉えさせる。	②題意を捉え、わかっていること、たずねられていることを発表する。
●紙に絵や図、式、答え、考え方などを書かせる。 ●実際に絵にかいたり数図ブロックを使ったりしてから、式に表し答えを求め自力解決させる。	③絵や数図ブロックを表してから、立式し、求め方を考える。
○絵や数図ブロックを操作して、2人の芽の数がどうなっているか考え並べる。 [考]【操作】 ●自力解決が難しい児童には、「芽が2つ多く出ている」のはだれのうえきばちかを考えさせながら支援する。 ●絵や数図ブロックから求大の式を見つけさせる。 ●紙に書いたことをもとに、説明させる。 ●絵や数図ブロックをどう動かしたのか、どう考えて答えを出したのか、実際に操作させながら発表させる。 ●自分の考え方と比べながら聞くようにさせる。 ○求大の求め方をブロック操作などにより説明することができる。 [表・処]【発言・操作】	④発表し、話し合う。 1. $5 + 2 = 7$ こたえ 7こ *求め方として ア. たいきくん 2こおい イ. たいきくん あすかさん 2こおい 2. $5 - 2 = 3$ こたえ 3こ [誤答]
●類似問題を解かせる。	⑤練習問題をする。
●学習で気づいたことや友だちの頑張ったことを発表する。	⑥学習を振り返る。

(1) 目標
違いに着目して、求小の逆思考の問題を解くことができる。

(2) 本時の展開

学習活動		第2学年	
①問題文を読み、問題場面を知る。		●支援 ○評価	
赤組の玉は34こ入っています。赤組は白組より6こ多いそうです。白組はなんこ入っていますか。		●ワークシートに書いてある問題文を何度も読み、分かっていることや聞かれていることなど大事なことに線を引かせ、整理させる。	
②題意を捉え、整理したことを発表する。		●問題文から玉入れで白組が入れた数を求める問題であることを捉えさせる。	
		●どちらの組が多いのか問題文の意味をもとにじっくり考え、大小関係を理解させる。	
③各自、テープ図などで考えをまとめ立式や説明をワークシートに書く。		●自力解決するうえで、どのような絵や図をかけば分かりやすいか考えさせる。そこで、赤と白の同じ長さのテープを使い考えさせる。	
		●題意を把握しにくい児童には個別にテープ図の要素の数を確認しながら捉えるように支援する。	
		○問題文から2つの数量の違いに着目して求め方を考える。[考]【観察、プリント】	
④発表し、話し合う。		●友だちの発表を聞いて、自分の考えと比較しながら聞けるようにさせる。	
1. $34 - 6 = 28$ 答え 28こ		○数量の違いに目をつけ、2段のテープ図に表すことができる。	
*求め方として		[表・処]【プリント、発言】	
ア. 		●「白組は赤組より6こ多い」と捉えてしまっているため、2段のテープ図で確認することが大切である。	
イ. 		●問題文に答えを当てはめると正しいか確かめさせる。	
赤組 			
白組 			
2. $34 + 6 = 40$ 答え 40こ		●類似問題を解かせる。	
[誤答]		●本時の授業の中で、テープ図は大小関係を視覚的に捉えられることを再確認する。	
⑤練習問題をする。			
⑥学習を振り返る。			

